深川消防団ニュース

さきもり

発　行　深川消防団
所在地　〒135-0042
東京都江東区木場
3丁目18番地10号
深川消防団本部
TEL：03-3642-0119
FAX：03-3641-4422

「小安 深川消防団長誕生！」

4月2日、新消防団長の任命発令式が行われました(区長室に於いて)

就任のご挨拶

深川消防団長
小安　勤

平成二十六年四月一日付けで深川消防団長に就任しました。山崎孝明江東区長より深川消防団長の拝命を受けました。大変身の引き締まる思いと重責を感じております。また形屋前団長から事務引継ぎも無事終了し、深川消防署会議室に於いて、消防署全職員の方々と初顔合わせの挨拶をさせて頂き、改めて、身の引き締まる思いと重責を感じました。

四月四日は団長就任後、初めての深川消防団幹部会議において二十六年度の団本部、及び各分団への辞令交付式を行い、深川消防団幹部の皆様に就任のご挨拶をし、会議の議事進行を努めたのが団長としての初仕事でした。

形屋前団長の、消防団に対する熱意と指導力に、いつも感銘しておりました。そして永きにわたり、地域防災にご貢献されましたことは、私達消防団の鑑でございます。今後とも、深川消防団員と消防署職員の皆様、関係団体の皆様のお力添えを賜りながら、より良い消防団づくりに頑張ってまいりま

すので、ご理解ご協力の程をお願いを致します。また、形屋前団長におかれましては、地域への更なるご貢献をご期待致しております。

さて、4月30日に、東京都消防協会団長会（東京都特別区58消防団）がおこなわれ、話題となったのが昨年12月に定められた「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」でした。阪神淡路大震災や東日本大震災に甚大な被害と一生懸命活動された消防団、消防職員の方々が多く亡くなられています。また台風、集中豪雨などの自然災害等、近年常識では考えられない災害が起こっています。そのような時に、一人一人の生命を守るためにどうするか、そのやり方を明らかにし、実行していくというのが、この法律制定の目的です。災害発生直後は、地域の消防、地元の消防団が中心になって活動を行います。そのために東日本大震災の教訓を活かし、装備の充実、団員の十分な確保、地域防災力の充実強化を図る為に、国、地方公共団体が債務等を義務付け、地域防災力の強化に関する計画の策定等の基本となる事項を定め、住民の積極的な参加の下に、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全確保に資することを目的とするとあります。この法律の制定により、国、地方公共団体より処遇改善、支援協力が今まで以上に充実が図られると共に地域の消防団として更なる災害活動能力の向上に一層の努力をしていかなくてはならないと考えます。今後、前団長から引継ぎ、新しい体制で始まりますが、先の法整備を鑑み、私達消防団員は、「自分たちの街は自分たちで守る」という郷土愛の精神と地域の防災リーダーとしての見識、気迫をもって取り組んでまいります。

地域の消防団として、防火防災、震災に対して更なる消防署隊と連携した実践的な教育訓練、災害活動能力の向上に努めてまいります。また地域と協力体制を図り、より良い防災行動力を高め、消防団としての指導の推進に努めてまいります。消防団の拠点となります、各分団活動施設の整備に引き続き取り組んでまいります。全国的に消防団員の減少傾向にある中で、継続的、効果的な入団促進を推進してまいります。この度、深川消防団では、はじめての女性の分団長が誕生しました。これを機にもっと女性に参加しやすい体制づくりと女性の特性を活かした活動体制の確立を図ってまいりたいと考えております。以上のように消防団に課せられた使命と消防団員の指導育成に取り組んでまいります。

今後共、皆様方のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願いを申し上げ、就任の挨拶といたします。

退任のご挨拶

前深川消防団長
形屋 憲一

第36回深川消防団「消防操法大会」開催おめでとう御座います。

今年の三月三十一日付を持ちまして団長を退任いたしました。

三十七年間在籍しました消防団、在任中はは、公私にわたり格別のご懇情賜り深く感謝申し上げます。

後任の小安勤団長には、益々素晴らしい能力を発揮し、深川消防団を発展し地域の皆様のご期待と信頼を得ること、頑張ってください。

私の父が消防団員として、二十年間在籍し、その後、私も入団いたしました。その後、私の妻も第六分団に入団し、現在は分団長に就任しております。又、息子も入団し、去年の「消防操法大会」に選手として参加し、優勝の団員となりました。

家族一同、訓練も大変ですが、やる気を持って楽しんでいます。

どうぞ、地域の皆様も深川消防団に御入団してください。

今後は、一町民として地域の安全を守る心意気を持って、生活を営んで行きたいと思います。

深川消防団の益々の活躍を期待しております。

平成二十六年六月一日

形屋 憲一

消防署定期人事異動

（平成二十六年四月一日付）

深川消防署副署長
消防司令長
寺井 慶一

副署長に就任しました寺井と申します。

第七方面の消防署に勤務することは初めてですが、子供のころから祖母に連れられて遊びに来ていたところでありますので、懐かしく感じる地域でもあります。

消防団の皆様におかれましては、他のお仕事を持ちながら地域のために貢献され、住民の方々からは尊敬と絶大な信頼を受けていらっしゃることと思います。そして歴史と伝統を兼ね備えた深川消防団の皆様と一緒に尽力でき

ることを誇りに思うと同時に身を引き締めて地域の安心・安全の確保に努めてまいりたいと思っております。良き下町と都市開発などの様々な顔を持つこの地域で思い出を新たに作っていけることを嬉しく思っております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

経歴

昭和五十年、東京消防庁入庁
昭和五十一年三月、荏原消防署拝命
その後、本庁広報課、世田谷・蒲田・本郷・麻布・新宿消防署を経て
本年四月に深川消防署副署長に着任

有明分署長
消防司令長
磯辺 孝之

有明分署長を拝命いたしました。宜しくお願いします。

歴史と伝統のある深川消防団の皆様と一緒に地域の安全・安心業務に関われる事を大変光栄に思います。私は本庁予防部において、新宿歌舞伎町雑居ビル火災に伴う消防法令改正業務や住宅用火災警報器設置条例化等の人命安全対策に従事した他、国土交通省では平成16年10月23日、新潟中越地震発災直後の被災建築物への応急危険度判定業務での人命安全対策、密集市街地の住宅・建築物の耐震改修等に従事して参りました。

有明分署長として、地元消防団の皆様から消防に対する熱意とご協力を頂く中で、災害現場活動、各種警戒活動、団消防操法訓練等の場を通じて、深川消防団の皆様との信頼関係を築いて参りたいと思います。歴史ある深川のまちと六年後のオリンピック・パラリンピック東京大会を控えた有明地区の安全・安心のために最善を尽す覚悟です。

経歴

昭和五十八年四月、東京消防庁入庁
同年九月、千住消防署拝命
その後、本庁人事部人事課（国土交通省住宅局建築指導課派遣）本庁予防部予防課、四谷・赤羽・芝消防署を経て、
本年四月に深川消防署有明分署長に着任。

防災安全係主任
消防司令補
伊藤 彰倫

四月より、本署防災安全係消防団担当になりました伊藤です。深川消防署に勤務して四年が経ちました。はしご隊、特別救助隊、森下特別消火中隊と経験させて頂きながら、深川という歴史と伝統のある町で勤務させていただき大変やりがいを感じていました。四月からは、自分たちの町を自分たちで守るという熱い思いの皆様と一緒になって仕事をする事となり身の引き締まる思いであります。深川のまちを守る皆様の活動を微力ながらも支援していけるように一生懸命に頑張ろうと思っていますので、お手柔らかにお願いします。

経歴

平成六年四月、東京消防庁入庁
同年十一月、江戸川消防署拝命
その後、板橋消防署、本庁総合指令室、
平成二十二年四月深川消防署、
本年四月に深川本署警防課安全係に着任。

深川消防団補職
（平成二十六年四月一日付）

団本部副団長
田口 賢治
（第二分団出身）

拝啓、この度、副団長に任命されました、田口賢治です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

団本部分団長の二年間はあっという間に過ぎてしまい、何もわからずに副団長に任命され大変戸惑っております。

消防団の原点は地域防災の担い手、（ちょっとオーバー）となり町会、学校、地域の関係団体等との連携を蜜にして「安心・安全」の町を守る精神が必要とされております。されど消防団員各位におかれては、生業を持ちながら消防団活動を行っております事は、大変な重責と思われます。しかしながら、我が深川消防団には、素晴らしい先輩方、気持ちの優しい団員達に恵まれ私自身もいち消防団員として大変勉強になりました。この経験を糧に、消防団員の一員として頑張りますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

団本部分団長
桑田 猛
（第四分団出身）

この度、団本部分団長に任命されました。

今までは、第四分団長として4年間務めて居りました

東日本大震災後、各町会、自治体の防災に対して、住民の皆さんの関心が高まっています。

団本部の役割は、住民の安心・安全

の為に、各分団とのパイプ役となる事だと思います。

各分団の皆様これからも宜しくおねがいします。

団本部分団長
菊池　哲
（第六分団出身）

この度、四月一日付けで団本部分団長に任命されました。

5年間の第六分団長の経験を活かし、団本部と各分団のパイプ役となり、団本部分団長としての重責を全うする所存でございます。

今後とも、団員の皆様のご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

団本部分団長
椎名　貞雄
（第七分団出身）

この度、四月一日付けで団本部分団長を任命され、改めて重責を感じております。

第7分団長として三期六年間の経験を生かし、新たな気持ちで深川消防団の為に、微力ではありますが、地域住民の安心と安全のために、一生懸命頑張って行きますので今後も更に、皆様方のご協力を頂きますよう宜しくお願いいたします。

第一分団長
志村　保司

この度、第一分団長を仰せつかり、その重責を痛感しております。

私たちの周りで発生するさまざまな自然災害に対処すべく、消防署や本団のご指導の下で、新たな知識や技術を身に付け、地元町会や自治会等と連携して、消防団活動を推し進めて行く所存でございます。どうぞ、宜しくお願いいたします。

第四分団長
椎名　康夫

この度、桑田前分団長（現・団本部分団長）の後を引継ぎ、第四分団長に任命されました。改めてその重責を感じております。

これからも地域の防火、防災に頑張って行く所存でございます。

これまで以上の御指導、ご協力をお願いいたします。

第六分団長
形屋　幸子

入団以来二十四年一ヶ月、この度、深川消防団としては初めての女性分団長として任命いただき重責を感じております。

歴代分団長が築いてきた六分団色である「輪」を崩さないよう団員の協力のもと「自分達の町は自分達で守る」をモットーに分団員一丸となって、消防署のご指導を頂きながら、担当地域住民の皆様と協力し、安心安全な町作りの防災リーダーとして努力して行きたいと思います。

第七分団長
勝山　瑳登志

この度、第七分団長に任命されました勝山瑳登志です。　椎名前分団長（現・団本部分団長）の後を引継ぎ、分団長の責任の重さを感じています。

何事も分団員に相談しながら地域とも一体となり、一人でも多くの団員の確保をして、消防署職員の皆様の御指導を受けながら、楽しく活発な消防団活動の為、団員の皆さんと共に七分団を盛り上げて行くつもりです。

これからも宜しくお願いいたします。

「千石町会のC級ポンプ操法」

第二分団担当地域

消防団操法大会会場に於いて

「C級ポンプ操法」の発表

【期日／5月18日】

深川消防団活動訓練の発表の最大イベントである「消防操法大会」にて、第二分団地域の千石2・3丁目町会の「C級ポンプ操法」の発表の場を与えていただくことになりました。

各地区での発表や町会の防災訓練、学校での合同防災訓練等で、街の方々に披露することはありましたが、新しいメンバーでの取り組みでしたので消防署の指導を受けることになりました。

五月十八日（日曜日）、6月1日に向

けてヒートアップしている消防団練習の後に続けて、横江町会長はじめ災害協力隊に集まっていただき深川消防署防災安全係の小坂係長、伊藤主任の指導のもと訓練が始まりました。

選手4名の規律や走行姿勢、放水での万全なカタチになるのは難しく、実際の火災現場での活動に対しては定期的な訓練の必要性を感じました。

第二分団員も知り合いの災害協力隊員ですので、発声や指示方法など細かい動きまで指導協力をさせていただき、災害協力隊の方々からは、「日頃から練習を積み重ねている消防団員ってすごいんだね。」とお褒めの感想をいただきました。

大会当日は、来賓の方々や熟練された消防団員の中での発表で、緊張して戸惑いながらの実技となりますが、このC級ホンプやスタンドパイプでの災害協力隊の消火活動の必要性が示される良いチャンスとなり、避難訓練だけではなく各町会での日常訓練が増えてくれることを期待したいところです。

第二分団班長　釼先美彦

第10回地域の防火防災功労賞

東洋5丁目町会が優良賞受賞

（第八分団担当地域）

1月26日。東陽5丁目東町会

同町会は山下勝義前副団長が町会長をされており、現在都内で問題になっている高齢化や地域の施設との連携問題を解決するために様々な取り組みを行っています。

災害時要援護者対応を取り入れ、高齢者の防災行動力を高め、町内にある高校と連携、消防署と連携し、きめ細やかな防火防災診断を実施し、地域一体となった活動に取り組んでいます。

多くの町会員から消防団に入団、分団の中核団員となっています。

消防団と町会は特に近い関係ですが、このように防災活動を通じた交流が深まれば相乗効果が生まれ、住民にはより一層の理解と防災意識が生まれると思います。

（第八分団 庄井 編集員）

スタンドパイプ取り扱い訓練

スタンドパイプ取り扱い訓練が、四月二十日に白河一丁目町会で行われました。消防署員と四分団にて、消火栓の開け方・閉め方の説明の後、町会の方々が実際に消火栓の開け閉めの訓練、続けて団員が補助しながらホースの筒先を持って放水の体験をしました。消防署員より、消火栓の開け閉めの際は、腰に充分注意することや、足をはさまないようにする方法などの指導がありました。

最後に、災害協力隊に配備されている救助器具と担架の扱い方の説明がありました。

新入団員教養に参加して

【期日／3月】
【場所／深川消防署】

参加団員
第九分団 岩渕 初美 団員

3月、深川消防署に於いて、消防団新入団教養が行われました。

「守られている。」そう強く感じる一日となりました。深川地元で、あたりまえのように過ごしてきた、安心で安全な毎日を支えてくれる人達がいる。そういった事を知る事、体験する事で、あらためて消防団活動を認識し、感じる事が出来ました。

最初の座学では、深川消防署町田係長を中心に、消防団員ハンドブックを利用し、消防団の組織としての役割や活動、服装や処遇についてなど事細かに、説明をして頂きました。その後、小安副団長さん（当時）よりご挨拶頂き、消防団になった馴れ初めや、現在に至るまでの思いなどをお話いただき、よりリアルに消防団員としての心がまえを学ばせて頂きました。それから休憩を挟み、実際の現場での疑似体験をしました。

体操から始まり、整列、号令、防災衣を着ての消火活動、放水、紐の結び方に至るまで、丁寧に分かりやすく一から教えて頂きました。

新入団教養で一日を通して学ぶ中で感じた事は、何の為に何をするのかという事です。

ご縁があって、昨年十月より消防団員として入団致しました。主婦であるがゆえに、子供の育児、家事、仕事との生活の中で、自分に出来る事があるのだろうかとの問いを感じたのは、3・11の震災でした。

生まれて初めて体感した、自然災害の脅威は、当たり前のようにある生活の根幹を揺るがしました。

それから、震災、災害について自分なりに情報を吸収し模索する中で、最後の砦となるのは、地域のコミュニティーだと思いました。人間関係、ご近所付き合いが、希薄する中で、横のつながりというものの大切さが一番の強さであると思いました。地域と消防団と消防署の三位一体となった繋がりが、手本となり、こういった、いざという時に、「命を守る力」となるんだと思います。地域の住民として。消防団の一員として。また子供の親として。今まで築きあげてきてくださった、消防署、消防団の先輩方に学び、弱輩者ではありますが、一歩ずつ、学び、感じ、伝えて参ります。愚かなるが故に時に迷走し、ご迷惑をおかけしていますが、消防団員の皆々様には厳しく叱咤激励の程を宜しくお願いします。

そして、最後にこういった新人団員教養研修に参加させて頂きました事、また、送り出してくれました、九分団の皆様、深川消防団の皆様、深川消防署職員の皆様に深く感謝しています。有難うございました。

消防団協力事業所

弊社は，防火・防災に
積極的に取り組んでいます。

http://www.teisoh.co.jp/ E-mail:info@teisoh.co.jp
PHONE.03-3642-0121 FAX.03-3641-1763

TEISOH 株式会社 テイソウ
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-5-1

消防団協力事業所

株式会社 ムトウユニパック

代表取締役 会長 武藤庄一

私たちは、本社ならびに各事業所を通じ、地域社会への貢献を目指しております。

sheet to leaf.

本社 / 東京都江東区永代 1-7-12 TEL 03-3642-1141（代表）
http://www.mutoh-u.co.jp/
支店・出張所 / 城南・東京中央・城西・横浜・千葉・四ッ谷・さいたま
栃木・前橋・新潟・水戸・長野・大阪・仙台

都バスの車内に「新入団員募集＆火災予防ポスター」掲示

【第八分団員が活躍】

3月1日から3月7日まで行われた春の火災予防運動に向けて、都バス深川営業所に出かけ、ここに集まっている都バス内に消防団員募集と火災防止のポスターを貼らせてもらいに行きました。

50年前ぐらいには東陽町にあった都バスの営業所ですが（今はその近くに操車場だけ残っています）現在は東雲に移り、広大な敷地内に各地を運行しているバスがおびただしい数集まり、営業所と整備工場があります。

ポスターには、消防団員の皆さんが活動している場面なども写った写真が掲示されていましたので、ご覧になった方も多かったと思います。

東雲の都バス操車場

新しくなった消防艇を視察

最新型化学消防艇【みやこどり】火災時の放水量が飛躍的に増えました

3月15日（日）、消防団幹部教養の一環として、東京港内及び海上から見た深川消防署管内の現況及び最新型化学消防艇「みやこどり」の視察が実施されました。いつもとは違った東京湾から視察をすることでより一層管内の特性を把握することができました。

また、大きな船体からの迫力ある放水は、圧巻で消防団幹部陣も思わず歓声を上げる場面が見られました。

消防団協力事業所

弊社の社員も消防団員として
活動しています。
社員一人ひとりが、防火・防災の知識・技術の向上に
取り組んでいます。
ご宿泊・ご婚礼・ご会合等、お気軽にお問い合わせください。

East 21 TOKYO オークラ ホテルズ＆リゾーツ
ホテル イースト21東京
〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3
03-5683-5683（代表）
www.hotel-east21.co.jp

消防団協力事業所

「大震災はいつ起こるか
分からない」

弊社の社員も消防団員として
活動しています。

丸八倉庫株式会社
江東区富岡 2-1-9 N.V 富岡ビル 4 階

救命胴衣（消防団用）

昨年十二月に、団本部から各分団まで団員数分は配置されています。

❖管理は各分団です。（分団本部等）

❖全団員に配置（休団者除く）

❖着用時の留意事項

◉落水時に、身体からずれると首等に引っかかって危険であることから、胸ベルト、腰ベルト、股紐のバックルは確実に、身体に密着するように胸ベルト等の長さを調整すること。

◉活動の支障とならないように、ベルトの余長は端末処理すること。

整理番号
団本部：本－1～本－8
各分団：1－1～1－21（団員数）
2－1～
（分団名）
10－1～10－28

表彰者の紹介 始め式以降の

◆叙　勲〈瑞宝單光章〉四月二十九日
元副団長　大森　稔

◆日本消防協会表彰〈精績章〉
第二分団　部長　佐竹　哲治

◆東京都消防協会表彰〈功労表彰〉
第九分団　副分団長　木下　真吾
第十分団　副分団長　田島ヒロ子

◆東京都消防協会表彰〈優良表彰〉
第二分団　団員　宇田川敬司
第三分団　団員　中山　勝透
第四分団　団員　岩木　昇
第六分団　部長　岡部健二郎
第十分団　部長　栩山美恵子
第十分団　部長　柏原　幸一

深川消防団 団本部員
団　長 小安　勤（第十分団出身）
副団長 志村　光一（第九分団出身）
副団長 岡本　繁（第四分団出身）
副団長 平山　敏夫（第三分団出身）
副団長 田口　賢治（第二分団出身）
分団長 桑田　猛（第四分団出身）
分団長 菊池　哲（第六分団出身）
分団長 椎名　貞雄（第七分団出身）
分団兼務団員
団　員 菊池　常美（第二分団副分団長）
団　員 中澤　聡（第四分団副分団長）
団　員 長谷川恵津子（第六分団部長）
団　員 庄井　勤（第八分団部長）
団　員 石山　一美（第九分団部長）
団　員 阿部　光城（第三分団班長）

消防署の指導者紹介

警防課
川部課長
毎日勤務
小坂　防災安全係長
伊藤　消防団担当主任
吉原　副主任

1部当番
佐々木　主任（特別救助隊長）
坂大　副主任（特別救助隊員）

2部当番
古谷　副主任（深川1小隊員）
板井　係員（特別救助隊員）

3部当番
島崎　主任（はしご隊長）
田島　係員（はしご隊機関員）

一部大隊長
消防司令　松本　敏貴
二部大隊長
消防司令　大下　博明
三部大隊長
消防司令　松本　一美

有明分署長
消防司令長　磯辺　孝之
永代出張所長
消防司令　岡田　英夫
枝川出張所長
消防司令　内田　幸喜
豊洲出張所長
消防司令　村瀬　信男
森下出張所長
消防司令　斎藤　昌雄

さきもり編集委員

分団名	任務	階級	氏名
団本部	監修	団長	小安　勤
団本部	編集責任者	副団長	岡本　繁
団本部	編集補佐	分団長	椎名　貞雄
一分団	編集補佐	副分団長	長谷川祐二
一分団	委員	部長	目黒　英紀
二分団	委員	班長	平林　忠之
三分団	委員	団員	中島紗江子
四分団	委員	班長	正本　光生
五分団	委員	団員	圓城寺正和
六分団	委員	班長	齋藤　定信
七分団	委員	部長	武藤　壽子
八分団	委員	部長	庄井　勤
九分団	委員	団員	岩淵　初美
十分団	委員	団員	栩山美恵子

編集後期

本号記事で特集いたしました通り、四月より新しく、小安前副団長が第12代深川消防団長に就任されました。他にも新年度に団本部及び各分団で新たな補職人事が行われ、本号で挨拶文と顔写真を掲載しました。

編集会議では早速フレッシュな提案がどんどん出されています。

今後とも、団員の皆さんと一緒に新しい紙面づくりをしていきたいと思っております。

「さきもり編集部一同」

急ごう震災対策（家具類の転倒・落下・移動防止対策）